# Aグループ

## 適切な進め方

- 前提条件を最初に明確に示す。
  町長からの説明が欲しい。
- 第1，2回のWS参加者が全員参加できる。
- 今後のWSにおいて円滑なグループワークのために班メンバーを変えない。
- 一つひとつの意見にその場で言及しない。にこやかに聴き受け入れる。
- 町民以外の意見も言いやすい雰囲気。

Aグループ

## 適切でない進め方

- ガス抜きのためのWSで終わる。
- 第3回目以降のWS参加者を選考で決める。

# Aグループ

## 質問・意見

- 3回目以降の選考基準は？
- 活用例　→防災省庁舎誘致

Bグループ

# 適切な進め方

## 参加者の理解と納得がある
・参加者の共通理解がある上での話し合い
・役場の方針を理解

## ネガティブは最小限
## ポジティブは最大限
・町民全体にとっていい方向へ
・建設的に創造する話を中心に
・町民全体に恩恵があるように

## 1人の意見が平等に反映され想いが尊重される
・皆の意見を平等にきく
・かたよりがない

## 将来を見据える
・関係人口の創出
・少子化の対応

## 町の歴史を知る住民から話をきく
・大学からではなく地域住民の声から知る

Bグループ

# 適切でない進め方

## 利活用場所の近隣住民やまちの若者がWSに不参加

・このWSは売却反対派の人が多い
・若い人がいないと本当の未来がみえない

## 町からの説明が不足のまま説明に納得しないまま

・WSの方向性が定まらない
・後出しなし

## 理解不足のまま話が進行

・目的を理解していない
・町民の理解がないまま
・ターゲットが不明確のまま

## 過去を反省しないまま

・過去の反省なしに今回の議論
・過去のまちづくりを知ってから

## 町民の意見が反映されず、上の人でだけで物事が決定

Bグループ

# 質問・意見

？. 駅前開発という区画整備があったが、
住民は満足しているのか

？. 事業プロセスの可否を判断できるのか

！. tsumikiの事例は別として考えるべき

Cグループ

# 適切な進め方

## 傾聴・共感

- 色々な年齢の人達、町民の意見を聞く
- 住民コミュニケーションを取る
- 町役場のことを考えて進める
- 互いに寄り添って討議する

## その他

- 支援してもらう
- お金をかけないやり方を探す

## 活用エリアの拡充

- 森林地域であることを活かす
- 道路を整備する
- T字路のデメリットを一方通行にして歩道確保
- 2~3か月に1回互市を行う

# 適切でない進め方

## 町と住民の考えの相違

- まちの方針がアクセルとブレーキになっている
- まちの考えの押し付け
- 意識合わせの時間が足りない

## その他

- 自分とは意見の違う人の話をその場で否定する
- 周辺住民の圧迫感

## 報連相がない・遅い

- 一部の意見だけまとめている
- 利府の役場跡地の売却について、すべての事業が後からの報告だった
- 役場主導で進めるのはまずい

Cグループ

# 質問・意見

まちの方針について
「発展につながる拠点の創出」
とは？

まちのビジョンの中で跡地は
どのような位置づけ？

まちが（職員や住民）どの
ように考えているのか。
外部の介入なく知りたい

「にぎわい創出」とは
具体的に何をイメージして
いるのか。

# 適切な進め方

Dグループ

## 住民と行政が協働する

・町から町民への一方的な説明をしない
・町は住民の意見を受けとめる
・参加者が納得した上で次のステップに進む
・町は町民の立場になって話し合いに参加
・地権者に寄り添った進め方にする

## コンセプトを決定する

・大町の良さを残すのか、新たな拠点とするのか
・福祉や防災についても考慮してほしい
・跡地に限らず道路や梨の古木がある公園、通行止め可能な道も含めて利活用を考える

## ワークショップの前提の共通認識を図る

・令和6年8月「（旧）十符の里プラザ跡地利活用について」の話し合いの内容を明確にする
・売却するか否かをはっきりとしてから進める
・町の方針Ｉと方針がぶれないよう、町民のための土地利活用にする
・ワークシップでの話し合いが跡地利活用に反映される

## 最終決定者を明確にする

・町長、町議会、町民投票など

Dグループ

# 適切ではない進め方

行政だけで決定すること

決定したことを覆すこと

町長が参加せずにワークショップを進めること

目先の利益だけを考えて売却すること

Dグループ

# 質問・意見など

土地の所有を町から移さないでほしい

“町民の税金”の使い方を明確にしてほしい

ワークショップの内容を参加者以外にも伝える

第一回目のワークショップだけで地区への理解が深まったか

Eグループ

# 適切な進め方

## 【広い世代】
・老若男女で構成されている
・各世代で意見交換できる
・中高生の意見も取り入れられる

## 【今と未来】
・現在と未来の両方を大事にする
・現状について理解を深める

## 【費用】
・予算が最初に示される
・民間主導で維持費を踏まえて有効活用する

## 【その他】
・他地域での事例を参考にする
・資源・資産を改めて見直していく

Eグループ

# 適切でない進め方

## 【最初に示すべきこと】

・日程がすべて提示されていない
・参加者の正確な人数がわからない

## 【世代の偏り】

・大人だけで決めるのはよくない
・個々の意見を集約しまとめるには

## 【その他】

・一人で話し出すことで、話し合いの時間が少なくなる
・町全体のビジョンと連動していない
・多数決での決定

Eグループ

# 質問・意見等

## 【疑問点】

・「まちの方針で民間活力の導入」とはワークショップのことか？

## 【意見】

・予算がどれくらいなのか明確にしてほしい

Fグループ

# 適切な進め方

- 対話の仕方や考え方
  - 多数決ではなく議論や対話で決める
  - 新しいものだけではなく古いものを大切にする対話
- 役場や先生に求めること
  - 佐々木先生が中立であること
  - そもそもの役場の構想を明らかにすること
  - 今まで議論した内容を開示すること
- 将来を見据えた町民のための土地活用
  - 貴重な土地は将来のために残し、町や町民のために使うべき
  - 町の土地は全町民のための土地であり役場のものではない

Fグループ

# 適切でない進め方

- 町民の意見の反映
  - 話したままの意見が反映されない結論になること
  - 町の一方的な考えで進行するのは反対する
- ワークの説明
  - 今回のワークの話が入らない

Fグループ

# 質問や意見

- ０ベースの意味
  - ０ベースは白紙という意味で良いのか
  - 売却は白紙にしてより良い土地活用をすべき
  - 売却の話は０ベースで白紙であること
  - 白紙という言葉を使って欲しい

- オリジナル性
  - 利府にしかないオリジナルのものであること